

令和 8 年度
第 2 回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

1 日 時	令和 8 年 7 月 1 6 日（木） 午前 9 時 0 0 分～午前 1 2 時 0 0 分
2 場 所	教育委員会室
3 議 題	（1）各施策についての点検・評価
4 資 料	次第、座席表、令和 8 年度点検評価委員会審査日程、令和 8 年度教育委員会の点検・評価報告書（案）、令和 7 年度教育行政方針
5 出 席 者	別紙出席者名簿のとおり
6 議 事	＜開 会＞ 午前 9 時 0 0 分 ＜会議の公開＞ 会議を公開することを決定した。傍聴者希望者はなし。 議題（1）各施策についての点検・評価 令和 8 年度教育委員会の点検・評価報告書「Ⅲ 点検・評価の結果（令和 7 年度事業対象）」において、「2 グローバル社会で活躍できる豊かな人間性と健やかな体の育成」の 1 3 事業（事業名は別紙「令和 8 年度さいたま市教育行政点検評価委員会日程」参照）及び「5 「未来を拓くさいたま教育」推進のための基盤整備」について所管課より説明を行った後、委員からの意見及び質問を受け付けた。 【主な意見及び質疑等】 5 グローバル社会で活躍できる豊かな人間性と健やかな体の育成 （1）世界のとびらを開く「グローバル・スタディ」の更なる進化 ＜武田委員長＞ 埼玉大学にはさいたま市の英語教員になりたいという学生もおり、さいたま市の英語教育や大宮国際中等教育学校の存在が教員のリクルートにもつながっていると考えている。さいたま市は教育研究所を中心とした教員となった後の研修体制も素晴らしいと思う。 ＜和田委員＞ 英語学習が日本語への理解力・表現力にもフィードバックされていると思う。 さいたま市は ALT の方や海外にルーツのある児童生徒が在籍するなど、複数の文化を学ぶ環境が当たり前であるのは、人権教育に繋がっており、全て教育の根っこにグローバル・スタディが根付いていると思う。 （2）幸せな未来の創造に向けて行動する力を育成する国際教育の推進 ＜武田委員長＞ 市立浦和高等学校の生徒がオーストラリアへのホームステイ先の子どもと大学生になっても繋がりがあある例もある。子どもたちの人生に種をまく仕事であると考えているので、続

令和 8 年度
第 2 回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

けていってほしい。

(3) 社会のつながりの中でよりよく生きる力をはぐくむキャリア教育の推進

＜鶴沢委員＞

なぜ実施件数が減っているのか。

＜生涯学習振興課長＞

未来(みら)くるワーク体験と教育課程指導課の事業であるさいたまエンジンが学校によって択一であるため。

＜鶴沢委員＞

受入れ企業へは感謝状を出しているのか。

＜生涯学習振興課長＞

全ての受入れ企業へ教育長、学校長連名で出している。

＜鶴沢委員＞

結婚式場など、子どもに夢を持たせる職場体験をさせてあげてほしい。

＜武田委員長＞

子どもの未来(みら)くるワーク体験談や選び方の声を収集すると、子どもの事業所選択がよりフェアな授業になるかと思う。

また、将来の職業の選択肢として警察などの業種と事業所を増やしていただきたい。

＜生涯学習振興課長＞

未来(みら)くるワーク体験の前後の子どもの声は事業所に伝えており、生徒にも家庭で体験談を共有するよう伝えている。

警察も一部実施しているので引き続き協力を依頼していく。

＜和田委員＞

受入れ事業所が店舗型の業種に偏りがあるように思える。業種の幅を増やす工夫や業種ごとの数をとってもよいと思う。

(4) 子どもを支える生徒指導の推進

(5) 一人ひとりの教育的ニーズに応じる特別支援教育の推進

(6) 国際バカロレアの教育によるグローバル人材の育成

＜鶴沢委員＞MYP・DP の修了者の母数は。

＜高校教育課長＞

MYP は定員 640 名全員が終了、DP は定員 160 名のうちグローバルコースを選択した 20 名前後がコースを選択して終了している。数字を少ないと感じると思うが、DP を実施する上で効果的な数字と認識している

＜武田委員長＞

国際バカロレアのカリキュラムを実施している他自治体の学校との交流は。

令和 8 年度
第 2 回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

＜高校教育課長＞

他の学校とのつながりはある、特に大宮国際中等教育学校のモデルとした札幌市立開成中等教育学校とのつながりがあり、教職員や生徒同士の交流があると聞いている。

＜武田委員長＞

大宮国際中等教育学校は独特であり孤立しがちなので他の学校との交流をしていただきたい。

＜鶴沢委員＞

授業は日本語と英語で行うのか。

＜高校教育課長＞

日本語 DP という方式ではあるが、英語授業もある。英語で英語以外の教科を教えられる教員の確保が課題。

（ 7 ）一人ひとりを大切にした人権教育の推進

＜鶴沢委員＞

人権教育と道徳教育が切り離されているのでは。

＜人権教育推進室長補佐＞

人権教育は道徳、社会の公民、特別活動の時間の外に国語や体育等の中にもあると考えている。学校にも単に優劣の評価ではなく、児童生徒が互いを尊重して評価する方針で指導するよう求めている。子ども自身が権利の主体であるとの理解を促し、権利と権利がぶつかる際にお互いの人権尊重をするよう指導する方針。

＜教育課程指導課長＞

道徳教育の中にも親切・思いやり、規則の尊重・公正公平社会正義といった人権教育を意識したものを導入している。

＜武田委員長＞

教育行政方針に主権者教育・法教育についての記載が見当たらない。いじめ防止、人権教育の土台として主権者教育・法教育があるものと考えてる。

かつて成人年齢の議論の中で主権者教育が実施されたが、一過性であるべきものではなく、民主主義社会の担い手としての自覚を育てるものとして、教育の根本に常に意識されるべきこと。

社会は法に基づいて運営されるべき、法は人のために存在し、法を尊重することで、人が尊重されるものであるべき、といった法教育も重要。過去に市内全ての中学校において生徒主導で実施された中学校校則見直しプロジェクトの成果を意識してほしい。

法教育は、子どもの非行防止や犯罪抑止のためにも、大変重要であると考えてる。小・中学校の卒業生の一定数が法を犯し、その一定数の大半に法の意識と知識が欠けていることは、放置できないと思う。

＜教育課程指導課長＞

教育委員会でも同じように考えており、主権者教育については「主体的に社会の形成に参画できる児童生徒の育成」として R8 年度では入れてある。来年度に期待してほしい。

令和 8 年度
第 2 回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

(8) スポーツを科学する生徒の育成

(9) 不登校等児童生徒への支援の充実と「学びの多様化学校」の設置

＜和田委員＞

Sola る一むの利用率の出し方は。

＜総合教育相談室長＞

全ての学校のうち利用のあった学校の割合。

＜和田委員＞

実績成果の記載に社会的自立につながる記載がないが、どのように効果を確認しているのか。社会的自立の考え方を伺いたい。

＜総合教育相談室長＞

不登校傾向や不登校の子どもが Sola る一む経由で教室に戻れるかといったアンケートから、何%が教室に戻れるかを調査している。また、学校内に設置した Sola る一むや、その他の校内外支援等にもフィットしない子ども達の受け皿としていそどり学園も開校した。最終目標としては、教室復帰のみを目的とするのではなく、~~そ~~別の形であっても、長い目で見て、最終的に社会に出てい~~そ~~けるようになることを社会的自立ととらえ、子ども達をサポートしていく。

＜武田委員長＞

義務教育でオンラインでの授業の出席も可能な、いそどり学園を開校したことに感謝している。安定・充実させてほしい一方で、この学校を出た後の受け皿として、公立の通信制高校の設置を期待する声も早くも出ているようであり、いずれはその方向で動くことも視野に入れておく必要があるかと思う。ここ数年で、埼玉県内の全域において、私立の通信制学校および学習センターが一気に増え、学校数も収容定員も増加しているので、このような私立学校からいそどり学園も学ぶところがあるかと思う。

(10) 子どもの幸せを保障する心のサポート体制の充実

(11) 持続可能な社会の創り手を育てる「さいたま SDGs 教育」の推進

(12) 運動の日常化に向けた「子どものための体力向上サポートプラン」の更なる推進

＜鶴沢委員＞

市として日頃の体力向上のカリキュラムはあるか。

＜教育課程指導課長＞

各学校でそれぞれの課題で見つけて対策している。

＜武田委員長＞

市全体で課題に対応すると、やらされ感が出てしまうので、学校単位で主体的に課題を見つけていくことになっていけば良いと思う。

令和8年度
第2回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

(13) 学校・家庭・地域が連携した魅力ある食育の充実

＜武田委員長＞

健康的な生活習慣があって初めて勉強ができると考えている。子どもたちの体づくりを保護者も含めリードしてほしい。

＜鵜沢委員＞

小学校の給食費は無償か、また追加で給食費を集めてより良いものにならないか

＜健康教育課長＞

給食は無償であり、現在の給食で栄養素と量が十分であるという認識である。

(その他)

＜武田委員長＞

グローバル社会がどうあるべきか、その認識が市教委と学校で一致していないと思う。

国連で採択される子どもの権利条約の一部だけでも掲示するなどの取組を提案する。

学校の中は既にグローバル社会であり、多様なルーツを持つ児童生徒、外国籍児童生徒への指導内容を共有することを提案する。

グローバル教育の原点に還る、グローバル教育の原点をより意識する、という姿勢を盛り込むべきと考えている。

＜休憩・担当所管入れ替え＞

「未来を拓くさいたま教育」推進のための基盤整備」の11事業（事業名は別紙「令和8年度点検評価委員会審査日程」参照）について所管課より説明を行った後、委員からの意見及び質問を受け付けた。

【主な意見及び質疑等】

(1) 時代の変化に対応する「新たな教師の学びの姿」の具現化

(2) 質の高い学校教育を実現するための魅力ある人材養成・確保・育成の一体化

＜和田委員＞

教員志願者が減っている中で、未来(みら)くるワークで先生の体験はできるのか。

＜教育課程指導課長＞

全てを把握しているわけではないが、先生の体験も実施していると聞いている。

＜和田委員＞

大人の時間軸で言えば比較的短期で効果が出るものと考えているので、先生の体験は教職員志願者を増やすためにも実施する意義があると思う。

＜武田委員長＞

ティーチャーリターン選考について、一時離脱した方にとっても魅力的な職場になるよう

令和 8 年度
第 2 回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

に働き方の改善を進めてほしい。また、警察で導入している SPI での選考という考えも検討してほしい。

< 鶴沢委員 >

教員採用試験の倍率は高いのか。

< 教職員人事課長 >

令和 8 年度教員採用選考の志願状況については、倍率 4.8 倍と高い状況。さいたま市を選んでもらえるように引き続き働き方の改善も含めて進めていく。

(3) 子どものスポーツ・文化活動の体制整備 ～部活動の地域展開～

< 鶴沢委員 >

部活動に外部の指導者が入ってきていることで、部活動の指導方針について相談を受けている。指導員の整備方針について問題が起こる前に整理してほしい。

< 教育課程指導課長 >

部活動指導員は教育委員会が面接・採用・研修をしている。現在部活動の地域展開の検証中だが、部活動指導の責任の所在や学校教育の内側か外側かなど整理し、子どもたちの不利にならないよう研修のありかたや指導員の登録のあり方等を進めていく。

< 武田委員長 >

外部人材への研修を徹底していただきたい。部活動において最終的な責任母体は学校・市教委と考えるので、子どもたちの声が届くように部活動相談窓口の設置や定期的な部活動のアンケート実施等のフィードバックの体制の整備を検討してほしい。

大宮国際中等教育学校のように放課後を生徒の自主的な活動に回すこともよいと思う。部活動は国際標準で言えば放課後の子どもを拘束することになる一方、部活動で育まれた伝統や文化もあるので一概に是非は問えないが、多様な価値観での放課後活動のあり方を長期的に検討してほしい。

< 和田委員 >

部活動の地域展開は保護者の理解を得られていないと思う。理解を得るには校長先生のリーダーシップだけでは難しいところがあるので、コミュニティ・スクールと同じくらいの教育委員会の後押しが必要と思う。部活動の地域展開は方向転換が急であったが、丁寧に対応してほしい。

< 教育課程指導課長 >

国は令和 13 年度までに地域展開を実施させる方針。全国的に部活動はなくなる前提としていの中で学校を母体としたまちクラブの創設等の検討を進めている。

(4) Well-being (幸せ) の実現に向けた学校における働き方改革の推進

< 和田委員 >

さいたま市 PTA 協議会としても「さいたま市立学校における働き方改革推進マスタープラン」を周知している。市 PTA 協議会としても協力したいと考えている。

令和 8 年度
第 2 回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

(5) 次世代に向けた持続可能で質の高い教育環境整備の推進

＜鶴沢委員＞

義務教育学校の開校前に関係者の協議は進めているのか。

＜武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備室長＞

すでにワーキンググループとして協議体制を整えてあり、現在議論を進めているところである。

＜武田委員長＞

入札不調はあるが、人件費や資材の高騰など外的な要因もある中で努力していることはよく理解している。子どもたちを待たせてしまうことにもなるので早期解決をお願いしたい。

＜和田委員＞

子どもにとっての 1 年は短く、2～3 年で地域の空気が変わってしまうものであり、一丸となって困難を乗り越えていただきたい。

＜武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備室長＞

説明会の際にも住民の方から様々な声をいただいたところ。過大規模校の解消という側面もあるが、将来的には小中一貫教育の質の向上を目指していると説明し、理解をいただいている。義務教育学校の開校に向けて進めていく。

＜武田委員長＞

メディアでは政治的な文脈で当事者ではない外部の人から批判を受けることもあると思うが、最も関わる地域の人々の声に耳を傾け、長期的に尽力いただきたい。

＜和田委員＞

将来的な利用者でもある未就学児も含め地域の方への発信もがんばっていただきたい。

＜武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備室長＞

昨年 NHK から取材を受けた際、放送の視聴率が高かったと聞いている。入札不調に関する世間の関心が高いと感じるとともに、公共放送されたことで、発信の効果があったようにも思う。引き続き、メディアでの発信も広報の一つのツールとして利用していきたい。

(6) 教育環境の充実を目指す水泳学習の民間委託化の推進

＜和田委員＞

落水事故を防ぐ目的で水泳学習を持続的にしていただきたい。

＜武田委員長＞

水泳教育の目的は命を守ること。救命のために着衣泳の機会を 1 回でも子どもたちに与えてほしい。埼玉県は川の災害のリスクが高く、命を守る水泳のニーズは高いものと考えている。教育委員会としてその認識をもっていただきたい。

＜鶴沢委員＞

着衣泳は重要と考えている。民間委託でも実施しているのか。

＜教育政策室長＞

民間委託した授業においても着衣泳を実施している。

令和 8 年度
第 2 回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

(7) 実効的で持続的な学校安全体制の充実

(8) 良好な学習環境等を目指す学校のリフレッシュ計画の推進

＜和田委員＞

ある学校の非常階段がさび付いて避難訓練でも使っていないと聞いている。安全を守るところに優先的に予算執行していただきたい。

＜鶴沢委員＞

耐震工事後の学校は耐用年数 65 年であるが、それ以降はどうするのか。

＜学校施設整備課長＞

現在全校耐震工事は完了しているところだが、躯体の健全性調査の上、調査結果が悪ければ建て替えという判断をしている。

(9) 快適な教育環境確保のための学校体育館への空調設備整備の推進

＜鶴沢委員＞

断熱工事をしない理由は。

＜学校施設整備課長＞

現状、工事での断熱は実施していないが遮熱塗装を行っている。空調整備を優先しているが、今後リフレッシュ工事の際に断熱シートの貼り付け等の断熱工事を進めていく。

＜武田委員長＞

美園北小学校のほかにシャワー室はつけないのか。

＜学校施設整備課長＞

大和田小には設置している。リフレッシュ工事を実施する学校については、既存のシャワーの改修や、新規設置について学校と検討を進めている。

(10) 明るく衛生的な学校トイレの洋式化等の推進

(11) さいたま市大学等進学「夢」支援の実施

＜鶴沢委員＞

クラウドファンディング頼みのように見える。市としては予算措置しないのか。

＜学事課長＞

財源の半分が寄付、もう半分が市の予算という内訳。クラウドファンディング分の余剰分は教育振興基金に充当しているところもあり、安定的に財源を確保している。

(その他)

＜武田委員長＞

日本で唯一、子どもの数が増え続け、新しく学校を作り続けないと間に合わない、というこの現況こそが、さいたま市教育が全国一である証拠だと評価している。広く人間愛に根差した理想を持ってさいたま市教育委員会が歩み続けることを応援している。

令和8年度
第2回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

<閉 会> 午後4時00分閉会

【問合せ先】 教育委員会事務局管理部教育政策室 829-1626